

チェ ソンファン

韓国

昌原市職員

①新型コロナウイルス感染拡大前後で生活はどのように変化しましたか。

コロナの拡大により、外出するより家にいる時間が増えました。そして、感染状況をきちんと知り対処すると同時に、政府の感染拡大防止指針を守るために努力し、自身の衛生状態や健康状態についてもしっかりと管理するようになりました。それ以外には、運動を以前よりもするようになりました。すべての状況下で、まずコロナを最優先に考えて行動するようになり、より用心深く慎重に考える習慣ができました。

感染拡大の怖さから、家族、知人、友人との関係を断ち、家で過ごす時間が増えたので、社会的孤立感が増しました。デリバリー、テイクアウト、オンライン注文など、消費パターンの変化もあり、衛生用品の消費も増えました。

「在宅勤務なんて可能なのか」と考えもしましたが、コロナによって半強制的に新しい勤務や授業を実施することになり、その方法についても悩みました。

②コロナ禍で気づいたことや学んだことはなんですか。

家族との時間をたくさん持てるようになり、自身の健康状態を毎日チェック・管理するようになったことは良かったと思います。

また、感染症や災難が発生したとき、国家の危機管理システムがどのように作動するのか、どのような結果がもたらされるのかを知るきっかけとなりました。実際に、世界のコロナ対応は国によって違い、感染拡大防止を優先するために国家が全面的に介入しなければならないのか、それとも経済に与える影響を憂慮して、感染拡大防止は後回しとすべきなのかなど、試行錯誤を経験しました。コロナという世界的な危機に直面し、世界のすべての国で、国家の役割と介入が拡大しました。一方で、コロナを受け入れる国民の考え方も国によって違い、国家の役割がどれほど重要なのか再確認しました。

⑤今現在（2022年 12月）の韓国の様子はどうですか。

感染が最も拡大していた時期と比べて、現在でもそれほど大きな違いはありませんが、コロナに対する恐れは、以前よりかなり少なくなりました。そして、これまで簡単には会えなかった友人と会い、外出も多くなり、海外に出かける機会も増えました。

⑥日本との違いを強く感じた場面があれば教えてください。

コロナ以前から、日本では冬に地下鉄やバスなどの公共交通機関において、多くの人がマスクを着用していましたが、韓国も感染症の怖さを知ったことで、地下鉄などでのマスク着用を義務

化しました。このことから、日本では以前から個人個人が、衛生管理に気を遣っていたのだと思います。

⑦ 姫路のみなさんへのメッセージ

これまで毎年、姫路市との青少年交流を行うことで、縁が深まり、お互いに理解し合える場がありました。コロナで交流が中断したことは、国際交流を担当していた職員として、たいへん残念に思っています。コロナだけでなく、今後新たに発生するかもしれない感染症に備え、両都市の市民が非対面で交流できる代替のプログラムを用意すべきだと思っています。清元秀泰姫路市長、そして姫路市民のみなさん、今はまだ大変ですが、いつか二つの市が以前のように青少年交流をはじめ、様々な分野において交流できる日が来ることを楽しみにしています。